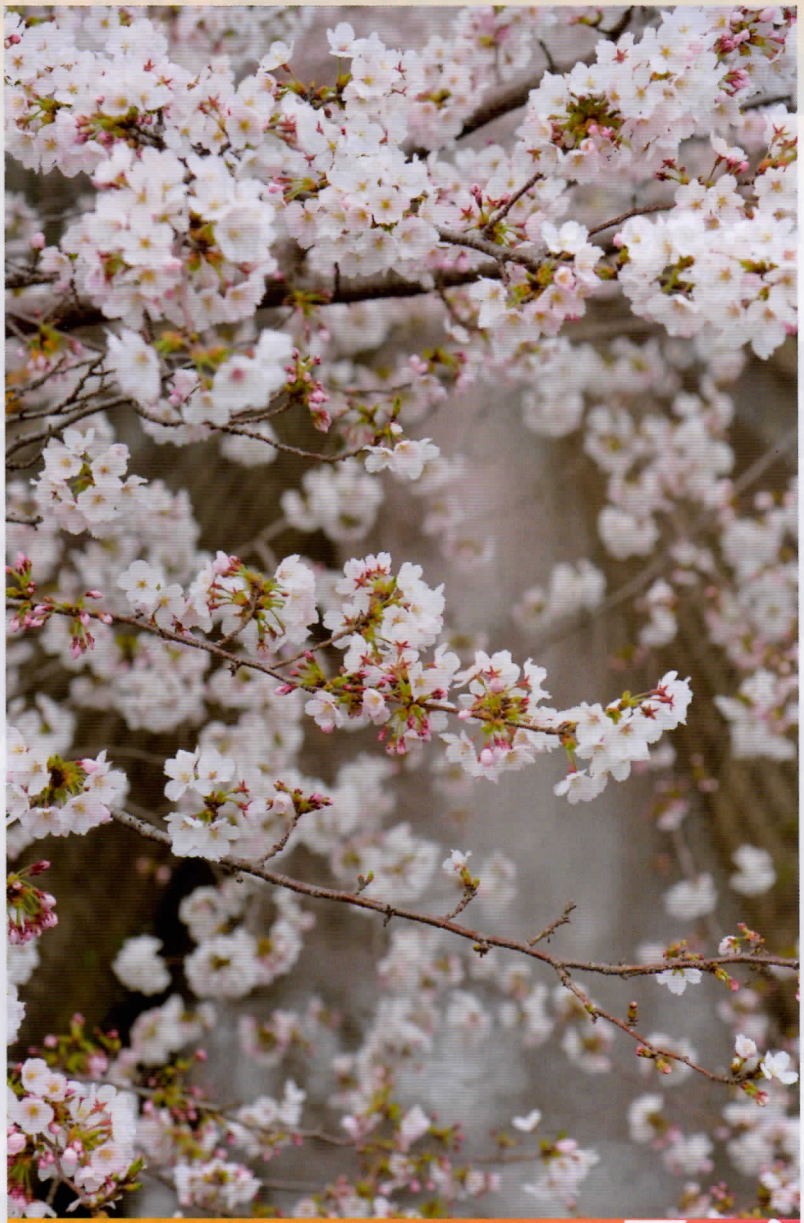
文化情報誌

Passion ・パッション



特集「はたらきながら」

輝くひと　上方落語の由緒ある名跡を襲名
―染弥改メ　三代目 林家菊丸さん

FLASH　故郷を思う気持ち　ピアニスト　嶌村直嗣さん

誌名の『パッション』は
燃えるような“情熱”の意味です。

2015 march 56

元気な四日市が好き!!
YBK 四日市市文化協会

巻頭によせて

地域の文化向上を願って

アミカン㈱・東洋工業㈱・東洋電機㈱　代表取締役　伊藤　勘作

協会創立20周年記念出版「四日市の礎Ⅱ・60人のドラマとその横顔」に私の祖父（六世勘作）が掲載されたご縁でご依頼を受け寄稿させて頂きました。明治19年に漁村であった富田の地に生まれた祖父は、県立第二中学校（現四日市高等学校）を卒業後、代々続く家業の漁網商を継ぐことになりますが、当時手梳きであった漁網を機械生産によって増産できるよう編網機の開発に取り組み量産化に成功して内外の需要に応えると共に大正14年に個人商店を法人化して製網会社を設立いたしました。同時に、その法人化を記念して富田の十四川堤防にさくらの苗木を植樹致しましたが長年に亘る地域の皆様方のご協力とご尽力により今日、地元の有名なさくら祭りとして毎年お花見で賑わいを見せております。

さて、人類は太古の昔から生活をより快適にするため知能を使って様々な行動をしてきました。この快適さを願う人類の知的思考や行動様式が「文化」の始まりだと言われていますが、これを「生活の文化」と言うそうで、今日の我々の日常生活も現代の「生活の文化」といえると思います。また人間の感性とは五感に入ってくる印象を受け止める能力で、美しいものを美しい、醜いものを醜いものとしてその美醜を判定する能力のことですが、この感性に訴えるものが音楽や美術をはじめとする芸術で、舞台芸能・娯楽・小説・建築等も含まれ感動や快感を通じて人々の「生活の文化」に潤いを与えてくれていますが、これを「感性の文化」と言うそうです。そして最後が「知性の文化」です。6千年前に発明されたと言われている「文字」によって人類の知的活動の蓄積と深化が急速に進み、それが洗練されて学問となり、今日の哲学・心理学などの人文科学、政治学・法律学などの社会科学、物理学・化学などの自然科学として発展してきましたが、「知性の文化」は人類にとって最も新しい文化の領域だと言われています。

四日市市文化協会はこの「文化」を冠に頂く協会として20年余に亘りご活躍を頂いておりますが、今後とも引き続き地域の「生活・感性・知性の文化」の向上に一層ご尽力頂ますよう心よりご期待申し上げます。

表紙写真　アサイ ミカ（十四川堤防のさくら）

はたらくことが文化に繋がっている人を今回の特集に取り上げました。

四日市市文化協会に関するお問い合わせや、
入会のお申し込みは、下記へご連絡ください。
〒 510-0057　四日市市昌栄町 21-10
TEL・FAX　059-351-3729
http://www.yokkaichishibunkakyoukai.com
E メール　ybk-jimu@m2.cty-net.ne.jp
開局時間　火曜日から金曜日までの
午後 1 時～ 5 時（祝祭日は除く）

Passion 56 2015 march

巻頭によせて
地域の文化向上を願って
アミカン㈱・東洋工業㈱・東洋電機㈱　代表取締役　伊藤　勘作

特集　はたらきながら

福祉施設に新しい花を咲かす～ブルーミングハウス～
社会福祉法人 四日市福祉会理事長 柏木　三穂 ……2

祭り好きが高じて…　弥な屋　代表　柳川　平和 ……3

表現することを好きになってほしい　STUDIO EDGE 小林　渚さん ……4

FLASH　故郷を思う気持ち　ピアニスト 嶌村　直嗣さん …… 6

四日市の城跡を歩こう ③
赤堀城跡　綱の会 …… 7

Sparkling Personality 輝くひと
上方落語の由緒ある名跡を襲名― 染弥改メ 三代目 林家菊丸さん …… 8

パッションひろば
短歌　きらら歌会……10

四日市地域　まちかど博物館めぐり
大入道さん mini ミュージアム＋Y　四日市のシンボル「大入道」に囲まれて …… 11

訪問レポート
人生に彩りを添えて　手描き染め「彩（あや）の会」……12

～第 64 回市民芸術文化祭～
総合美術展を終えて　染色　廣山　三千代 ……13
「伝え続ける」大切さ　舞踊 I　西川　保歳 ……14
第 64 回合唱祭　合唱　福田　真美 …… 15

四日市市文化協会後援イベント …… 14～15
短信／リレーエッセイ／理事長つぶやき／編集後記 …… 16

福祉施設に新しい花を咲かす
～ブルーミングハウス～

社会福祉法人　四日市福祉会
理事長　柏木　三穂

鎧塚さんが施設を訪問

柏木三穂氏

横浜出身の私が、初めて四日市で働くことになったのは昭和60年頃、嫁ぎ先の会社の総務課でした。大企業の下請の製造工場で、高齢者の方、障害者の方が多く働かれているのが大変に印象的でした。

それまで障害のある方との関わりのなかった私が現在、知的障害者施設の長として日々活動させて頂いているのも平成6年に義母が社会福祉法人を立上げ障害のある方の雇用を通して培ったノウハウを活かし、障害者支援施設を作ろうと言うのがスタートでした。当初は雲を掴むような話でしたが、代々受け継がれてきた所有の土地等を寄付し、そこに施設の建物が完成し、職員が入職し障害のある方が入居され、毎日が繰り返され20年が経過しました。充実した日ばかりではありませんが、障害のある方が羽津地区という住宅地域で日々暮らし、活動することができるのは職員の努力はもとより、地域の方の温かい協力のお蔭だと感じています。ややもすれば、希薄な関係性も時には、ご迷惑をおかけして地域の方のご自宅に謝罪に行くこともあり、徐々に関係性が築けています。秋には毎年、法人を挙げてのお祭りを開催します。障害のある方も施設も地域の方も一緒になって一日公演、ゲーム、バザーなどで楽しみます。これは地域の方に、当法人をより知って頂こうと職員が企画したもので来場者は500人を超えるようになりました。当所のパン工房は、生地から作ったパンを販売しています。昨年からは焼き菓子を渋谷のヨロイヅカファーム東京に出品するようになりました。

東京で販売されているスイーツ

今や私は四日市のネイティブスピーカーとなり、多くの職員や利用者の方に囲まれ、殆ど病気をすることもなく、楽しく仕事ができるのもこの仕事に出会ったお蔭だと考えています。施設名にあるbloomingは、花咲く・芽吹くという意味があり、最初の施設開所時に私が命名しました。障害のある人の夢がかなう、能力が芽吹くようにと言う想いを込めたのです。

まだ、道半ばとは思いますが、今は次の世代の職員たちにこれから目指すところの共有を図り、全て自分でやり遂げるというよりも、繋ぎ、一緒に進めていきたいと考えている今日この頃です。

祭り好きが高じて…

弥な屋
代表 柳川 平和

弥な屋を開店して今年で14年になります。弥な屋って何の店ですかっと、今でも尋ねられます。店の外観から察すると「和」の店「祭り」の店？何を売っていますか？

まず弥な屋の説明をさせていただきます。当店は、祭りの衣装、オリジナルの袢纏、はっぴ、既製品のはっぴ、股引、腹掛け、鯉口シャツ、地下足袋など石取祭や御神輿の時の衣装を子供用から大人用まで、子供用は0歳児からあります。祭りの衣装なら何でも揃っていますし、その地区ごとの特殊な衣装もオリジナルで製作しています。

他には、手拭いを300種類、小風呂敷を450種類、風呂敷、フンドシなんかも販売しています。

また、踊りの衣装や小物、カラオケの衣装も扱っています。

その次によく聞かれるのは、なぜこのような変わった店を開いたのかと言うことです。

その答えは簡単で、私は子供の頃から祭りが好きでした。それは、母親のお腹の中で石取祭の太鼓と鉦の音を聞いて育ったからでしょうか？

大人になってからは、東京の浅草三社祭、鳥越祭り、深川八幡宮例大祭、新宿熊野神社例大祭、和歌山県新宮市の御灯祭り等々、東京を中心に御神輿などのお祭りに見るのではなく参加しています。浅草三社祭は30年余り仲見世町会の袢纏をお借りして御神輿を担いでいます。

四日市市の御諏訪御輿の製作にも汗を流しました。

そしてお祭りに行く時に、衣装が四日市市では売っていませんでした。東京へ出張に行った時とか、お祭りに行った時に買うくらいでした。祭りに参加する人がいるのに衣装はどうしているんだろう、わざわざ東京へ行って買っているのだろうか、そういう人たちのためにお役に立ちたいと思い弥な屋を開店しました。趣味が高じてってコトでしょうか？

今では、三重県内はもとより名古屋市、滋賀県辺りからもお客様がお見えになります。

お客様の中には、いろいろな方がお見えですが、祭りのときの皆さんの嬉しそうなお顔を拝見するとこの仕事をしていて良かったといつも思います。各地区の御神事に関わらせていただけることに感謝しています。これからも頑張って各地区のお祭りの繁栄と絆づくりにお役に立ちたいと思っています。

表現することを好きになってほしい

STUDIO EDGE
小林　渚さん

ときわにある子どもの本専門店メリーゴーランドに、「あそびじゅつ」という絵画教室がある。あそびを通して感じたことを描いたり、表現を楽しんだりすることを目的とする教室だ。一昨年2月にそこから独立して、新しくSTUDIO EDGEという教室を開いた小林渚さん。昨年までは諏訪に事務所を借りていたが、今年の1月から新しく西日野の自宅を改装して教室（幼児／小学生クラス）にした。お話を伺ったところ、まず話し出されたのは意外にも映画制作のことだった。

自主性に任せた映画作り

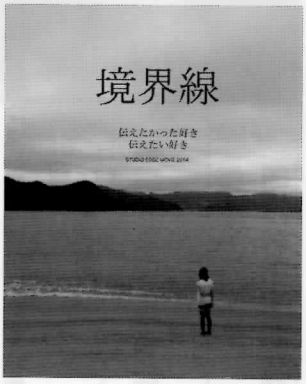
「あそびじゅつ」の頃から現在まで、中高生クラスでは自主映画を作ることを教えている。といっても、小林さんが教えるのは、カメラのアングルやカット割り、どの角度で撮ったら良いかなど、映像に関する技術的なことで、脚本や演技は生徒たちに任せる。

脚本は全員で会議をして「やりたいイメージ」を出し合ったあと、2～3人の脚本チームがテーマを絞り込みまとめあげる。小林さんは、ここでもヒントを与えるだけで、最終的に決めるのは生徒たちだ。

脚本ができあがるまでの間、他のメンバーは、以前深夜テレビでやっていたような「スジナシ」（台本がなく、出演者がその場で台詞を考え、劇を作っていく）を撮影して、演技や撮影の経験を楽しみながら積んでいく。映画を作っていると、時には、その過程で大きな壁にぶつかる。しかしそんなときも、中高生がそれぞれの得意分野を生かして話し合い、工夫しながら乗り越えていく。その積み重ねから、お互いを認め合うことが自然とできていき、一つのいい信頼関係のあるチームになっていくのだという。

スジナシ中

こうして作られた映画は、2012年から三重県総合文化センターで行われている映画イベントに、大学生や一般の団体の作品に混じって自主映画として上映されてきた。2012年に上映された「恋会～レンアイ～」というラブストーリーは、そのとき上映された自主映画の中で唯一、会場から拍手がわいた。



審査員として列席していた映画監督の崔洋一氏からも、良かったと褒められ、自信になったと話す。

上映会のあと、お客さんのアンケートを読む。賛否両論いろんな意見がある。小林さんは、「心の中に残ったことだけ、覚えておけばいいんだよ」と言ってあげる。ともすれば、褒められたことだけ覚えていそうだが、生徒の中には、批評されたことを次に生かそうとする子もいるという。「胸に響いた言葉は忘れないです。それが次への原動力になります」

絵を描くことが好きになってほしい

子どもの時から絵を描くことが好きだった

困った時の、アドバイス中

小林さんは、大学卒業後、看板制作の会社に就職した。「スジがいい」と、上司にも認められ充実していたが「どこか違和感を感じて」一年でやめ、グラフィックデザインの専門学校に入りなおした。そこで講師をしていたメリーゴーランド店主の増田さんに出会った。その増田さんに誘われて、メリーゴーランドで絵本塾に入塾、その後、「あそびじゅつ」の講師になったのだ。

こども達には、まず一人一人とコミュニケーションをとり、絵を好きになってもらうことから始め、気が乗らない様子の子には、そっとしておいたり、話を聞いてあげ、無理に描かせることはしない。

「上手にかけないから」「そっくりにかけないから」絵が嫌いだという子がいる。とてももったいないと思う。だから、そんな子には「上手かどうかより大事なことがあるよ」と話し、絵が好きになる入り口を工夫してあげる。「絵はこうでなきゃいけない、という枠を外すと、どんどん楽しくなります。表現欲はみんなが持っているもの。それを解放することはとても楽しいことです」そうやって好きになった結果、いろんな可能性が広がるのだ。

あきらめないこと、工夫すること

「最初からうまくいかないのは当たり前で、大事なのは失敗した時に工夫すること。今の子はうまくいかないと、もういいやとあきらめてしまう子が多い。あきらめないことが大事。壁を乗り越えれば、何だ、こんな事だったのかと気づく。それが生きる力になり、生活に生きてくる。」映画制作について語ってもらっている時の、小林さんの言葉だ。

この「STUDIO EDGE」中高生クラスの映画作りは、今は「文化の諏訪駅」で行っている。独立当初は「あそびじゅつ」からの生徒がメインだったが、口コミでメンバーが増えてきた。現在は定員いっぱいのため、見学のみ受け付けている。春ごろに卒業していくメンバーがいるので、何度か見学の上、春からの入会をお勧めしている。

一方、西日野で新しく開いた教室（幼児／小学生クラス）は、生徒を広く募集している。この春には、教室の隣のスペースに雑貨屋さんをオープンする予定という。車で送迎する保護者に時間つぶしもかねて、立ち寄ってもらいたいと考えている。

精力的に活動する小林さんは、毎年秋に諏訪公園で開かれる「こども四日市」というイベントのプロジェクトリーダーもしている。こども達が様々な仕事をしたり、店を作って商売して稼いだお金（専用通貨：ヨー）を使って、買い物をしたり遊んだりするというイベントだ。昨今は先生の言うことをよく聞いておとなしいが、創造性に乏しい子が増えたように思う。小林さんのもとで学んだ子ども達は、自由な発想で、自由に色を使って絵を描き、自分の思いを存分に表現できる子になるだろう。

（レポート　石井　亨）

こども四日市2014終了！

＜お問い合わせは＞
こどもアート工房
STUDIO EDGE
〒510-0943
四日市市西日野町4893-4
TEL&FAX：059-321-6002
携帯：080-3670-3868（小林）
E-mail：nagisa8@mac.com
Web：
http://nagisa8.wix.com/studio-edge

FLASH

故郷を思う気持ち

ピアニスト 嶌村　直嗣さん

本年5月に、四日市交響楽団と共演する四日市市出身のピアニスト、嶌村直嗣さんにお話しをお聞きしました。

4歳からピアノを始められたそうですが、どなたかの影響を受けられたのでしょうか。

私がピアノを始めたのは、水泳や習字などと同じくあくまで習い事の一つとして、でした。小さい頃から音楽は大好きだったものの練習が大嫌いで、どうやって練習をサボろうか…などとばかり考えていました（笑）昔からショパンの曲が大好きで、様々なピアニストの録音によるショパンのピアノ曲全集をよく聴いていましたね。自分から率先して弾きたい勉強したいと思う曲も、ショパンの曲が多かったと思います。

演奏家になろうと志したのは、いつごろ、どんなきっかけだったのでしょうか。

しっかり自分の中でこの道を志そうと決意したのは高校生になってからです。それまでは音楽、ピアノが好きだからという漠然とした理由でピアノを続けていましたが、あるコンクールの舞台で弾いた時に、自分が思い描いた音楽を表現することの魅力と、そのために必要な技術や知識、表現力の足りなさを痛感し、もっと深く音楽を勉強したいと思ったのが大きなきっかけです。

「四響」と共演されるにあたり、意気込みなどをお聞かせください。

私が育った四日市で、ここで活躍されている四響さんと演奏させて頂く機会を頂き、本当に幸せな気持ちで一杯です。故郷を思う気持ちは、どのような形であれ音楽の表現に深く影響を与えます。ベートーヴェンの音楽には、故郷への様々な思いを感じさせたり、故郷の情景を連想させる曲やフレーズが多くあると思います。そのベートーヴェンの一曲を、四響の皆様とどの様に創っていけるか、とても楽しみにしております。

今後の展望や目標をお聞かせください。

音楽を学ぶことに終わりはなく、例え同じ曲であっても弾く度、聴く度に新しい魅力や発見を与えてくれます。今後も学ぶことを惜しまず自分の「音楽」を磨き、聴いて下さる方々に音楽の持つ新しい魅力や発見を与え続けられる演奏家になれるよう精進していきたいと思っております。

（レポート　前岨　寿々子）

嶌村　直嗣（しまむら　なおつぐ）プロフィール

三重県立四日市高校普通科を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻を卒業。
第５回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 東海・北陸大会中学生部門金賞、同 ASIA 大会銅賞。
第 61 回全日本学生音楽コンクール名古屋大会高校生部門第一位、同全国大会入賞。
これまでに田中章子、佐野翠、西川秀人、坂井千春の各氏に師事。

＊「四日市交響楽団第 37 回定期演奏会」は、本年５月 31 日（日）、14 時 30 分開演、四日市市文化会館第１ホールにて開催。
お問い合わせ
Tel：059-351-0065（まえそわ）

四日市の城跡を歩こう ③

赤堀城跡

車道から撮ったもの

城跡は、四日市の中心の市街地である城東町にあたる。都市化が進んでいるため、遺構をとどめていない。

旧「三重郡赤堀村字城西、同城東、同新三郎縄」の地籍図に（70m×70m）の主郭の土塁や堀跡が認められる。周辺にも土塁や堀跡と思われる地割も認められ、かなり大きな城郭であったことが想定されている。

昭和の初期に同地の南側に東西（松本から東海道まで）に通じる「松本街道」を幅5.4m拡げるために、城跡の土盛りを崩し利用したようである

赤堀氏四日市進出

田原（俵）藤太秀郷は藤原鎌足の八代目（近江の国の大ムカデ退治で知られる）の末裔である。さらに十一世の孫、足利又太郎忠綱が、治承四年（一一八〇）史上名高い宇治川の先陣で功を上げ上野国（群馬県）赤堀荘を賜った。（現在群馬県伊勢崎市赤堀今井）この忠綱の甥の影綱の子孫の赤堀三郎左衛門入道勝謂に、足利尊氏は正平八年（一三五三）伊勢国野辺（のんべ）（鈴鹿市野辺）に御厨地頭に派遣した。その一族が伊勢に入り栗原に（現在の四日市赤堀）居住するようになった。後、伊勢の国司北畠家に仕え当地に赤堀城を築くことになる。

景信は、長男を羽津城主、二男を赤堀城主、三男を浜田城主に配し、赤堀三家の基礎を築いた。

四日市の地名の起源となる

赤堀家の三男忠秀は、日永と通じていた東海道を浜田城の東に移し、また東西にも道を造りその道沿いには民家も増えていった。三滝川の南辺りの辻（伊勢神宮への分岐点が日永地区の追分とある）に毎月4の付く日に市場を開いた。市場村と呼ばれるようになる。その後、整備されて行き定期市場となり人々に利便を与えていった。四日市中心部は江戸時代天領であったため、伊勢国北勢地域では行政の中心地になって、これが四日市の地名の起源となる。

赤堀城跡説明文

工藤氏に占領される

永禄十一年（一五六八）（伊勢長野城主）工藤藤定は宵から兵を赤堀の近辺に忍ばせ、夜中に塀を乗り越え、一挙に関の声をあげた。このため城中は、慌てて防戦した。そのとき最初に城中に乗り込んだのは美間小六、佐治広島の二人だった。

赤堀城主の隠居で卜月という八十有余の老人を佐治広島が引き立ててきたのを、美間小六は痛ましく思い「そんな年寄りを討取っても手柄にならん」と言えば、佐治広島も尤もと思い放してやった。老人は美間小六に「敵ながら優しい人である」と名を聞き「われは赤堀卜月ぞ」と名乗り家重代の太刀「鎌倉山内助真」二尺五寸（75センチメートル）を美間小六に授け自害した。

赤堀城は築城後、一七九年で工藤家に降伏し、占領され工藤家の家臣となった。その後赤堀一族の治部大輔が従来の城郭の上に3メートル余の土盛りをし、その上に城館を建てた。しかし天正三年（一五七五）滝川一益が浜田城、赤堀城を攻略。ここに赤堀城、浜田城は滅亡した。

（取材・文　綱の会　石谷英子）

参考資料及び引用文献
赤堀氏三つ頭左巴（常盤地区ホームページより）／鵜野森神社の歴史（山路浩一著）
四日市市史

Sparkling Personality 輝くひと

上方落語の由緒ある名跡（みょうせき）を襲名

―― 染弥改メ 三代目 林家菊丸さん

※

落語家への道

「えー、四日市の河合産婦人科で生まれまして…」

取材にあたり、襲名披露についてと出身地四日市のエピソードについて聞かせていただけたらと話した途端、いきなりローカルな産婦人科名が飛び出し、思わず笑ってしまった。パッションの読者を踏まえたサービス精神とプロ意識で、即座にネタを繰り出されてしまったのだ。

プロフィールでは亀山出身とすることもあるようだが、正確には四日市→亀山→四日市→大阪ということのようだ。高校生の頃に母の実家の四日市に移ることになり、「そらもう、すごい都会に来たような感じで…。友達と服を見に行っても、レコード屋に行っても、何をしてても楽しかったですねぇ…」と感慨深げに語る。具体的な店名なども次々と飛び出し、「今もありますか?」と興味津々。当時の時代背景と多感な時期が重なり、相当刺激的な時間だったようだ。そんななか、「四日市文化会館で桂福団治の独演会があることを知り、『好きな落語が生で観られる』ということで、友達を誘って見に行ったんです!」落語家への憧れが膨らんだ。

大阪では真っ先に大阪弁の習得に励み、二十歳で大学を中退して四代目林家染丸に入門。林家染弥の名をもらい、大阪で一旗あげるまでは故郷に帰らないと決意して修業に励み、芸歴十年の節目に「なにわ芸術祭 新人落語家部門 新人奨励賞」を受賞。上方落語の本場である大阪で認められたことで、「これで恥ずかしくなく故郷へ帰れる」とひと安心し、今も続く三重テレビのレギュラー番組を得て大阪と故郷の三重を中心とした活動が始まった。

名跡襲名

落語家としての精力的な活動が続くなか、平成24年に入り、上方落語の由緒ある名跡「林家菊丸」の三代目襲名の話が持ち上がる。これにはふたつの点で戸惑ったという。ひとつは自身がその名にふさわしいかという点。芸歴は重ねてきたものの、まだまだ立派な実績があるわけではない。もうひとつはこれまで多くの人に覚えてもらった「染弥」という名を失うこと。このまま自分が忘れられてしまうのではないかという不安が頭をよぎった。約3年後の襲名をという話に、「もっと実績を積まないと」と世間体を一番に思ったという。

さらなる奮起を決意し、それまで年に一回行ってきた大阪での独演会も年四回とし、精力的に活動の場を広げた。それらが功を奏してか、翌平成25年7月に大阪文化

祭の現代演劇・大衆芸能を対象とした分野で大阪文化祭賞奨励賞を受賞。これはかつて師匠も受賞した上方落語の登竜門である。さらに同年11月、上方落語唯一の寄席「繁昌亭」で行われる繁昌亭大賞の奨励賞を受賞。ようやく襲名の不安が解消された。

平成26年9月27日、晴れて明治期の初代林家菊丸、その実子の二代目に次ぐ三代目「林家菊丸」を約115年ぶりに襲名。大阪公演を皮切りに一年間に及ぶ襲名披露公演がスタートした。今年1月に東京国立劇場行われた東京公演などの全国各地でのお披露目に加え、昨年12月にはバンコクでのタイ公演も行った。これまでの活動に加えての襲名披露公演は多忙を極めるが、「お世話になった方のためにも失敗はできない」と奮闘する。三

三重テレビでの生放送終了後の取材風景

重県内での公演は、昨年11月の東員町、今年2月の津に続き、亀山、伊賀、そして全国公演の千秋楽を「故郷でフィナーレを飾りたい」と、自身が生まれ、今も母と姉が暮らす四日市で開催する。

離れてみて想う四日市

取材の最後に、あらためて〝離れてみて想う四日市〟について聞いてみたところ、「活気がない、昔はよかった、とよう言うが、新しい店ができてたり、僕は四日市は活気づいていると思う。いろいろな要素が加わってすごく面白い」「四日市のいいところは閉鎖的じゃないところ。人も新しいものも受け入れる。やっぱり都会的なんだなと思う」と、単なるノスタルジーではない。

昨年９月27日のなんばグランド花月で開催された襲名披露公演での口上　※

ゆくゆくは四日市に

さらに、「実績がついたら、ゆくゆくは四日市に住みたいなぁと思う」とも。半信半疑で確認すると、「載せてもらっていいですよ。本当に思ってますから」どうやら本心のようだ。そして「四日市に定席（常設の寄席）をつくりたい」とも。今でも毎年、文化会館での「文治まつり」、富田一色の飛鳥神社や中心市街地の諏訪神社などでの「神笑亭」で市民に落語を披露しているが、毎日とはいかないまでも4のつく日に開催するなど頻繁に開催し、「苦にならず、そんなにお金のかかるものでもない落語を通じて笑いを提供し、名古屋からも大阪からもお客さんに来てもらって、四日市を三重県の中でも一番発展させていきたい。そのためには林家菊丸をもっと知ってもらって、あとはどれだけ自分が芸を発揮できるかです」と語る。

これまでにも何度かお会いさせて頂いたが、四日市へのこんな想いを聞いたのは今回の取材が初めてだった。いつかそんな時が来たらと想像すると、今後の活躍を応援せずにはいられない。

（レポート　久安典之）

毎年秋に開催される諏訪神社「神笑亭」

染弥改メ
三代目林家菊丸襲名披露公演
千秋楽公演

場所：四日市文化会館　第一ホール
日時：平成27年9月6日（日）午後2時～
出演予定：林家菊丸、桂文枝、三遊亭円楽、
林家染丸　ほか

※写真提供：よしもとクリエイティブ・エージェンシー

短歌　きらら歌会

鈴木　利子

しづかなる蟻のひと日やひとときのいのち見てゐつ微光ありけり
小手毬の芽ぐむをいよよ際立たせ花起しの雨ひと日ふりつぐ
すぎこしの科（とが）ゆるすがに菜の花は丘のなだりにほがら黄のいろ
亡き友の「さんかくしかくまたあした」曼珠沙華つづく土手をゆくとき
シクラメン猛暑つづきて狂ひ咲く今宵しきりに光る稲妻

中山トシ子

江戸の世の空気はつかに残りゐむ芭蕉生家の仄暗き土間
注連縄を結ひたる大き石ひとつ境内にあり謂れは知らず
心にもあらぬ世辞などまじへたり身過ぎ世過ぎの世間話に
皿一枚割ってしまへりその音に怯む一瞬迷ひは消えつ
開け放つ朝の窓より出でゆけり昨夜（よべ）より胸に凝りゐしもの

高井　睦朗

大外刈耐ふる相手の軸足へ小外を放つその醍醐味や
内股を外し相手を抱へつつ横車へと変はる楽しさ
大技で敗れしよりも屈辱が尾を引く出足払ひの負けは
靖国に飾らるる道をまたゆくか英霊の多くは餓死し給ひき
日本兵の残虐の具体言はざれど後藤田正晴は吐く「酷いもんだよ」

形岡　トミ

友達と一緒の孫に声かけず足早に過ぐ素顔の今日は
朝顔の登りつめたる蔓の先ゆれつつ風の芯を捕える
端居して見上げる空に朝顔の蔓はしっかと雲の端つかむ
那智黒の硯は小さき卵形ひと雫して絵手紙を書く
花束のような手紙が届きたり「昔遊びの名人さんへ」

きらら歌会はコスモス短歌会の四日市勉強会です。原則として毎月第二日曜日の午後に市の総合会館で開きます。短歌に興味のある方はぶらっとお寄り下さい。（高井　睦朗）

パッションひろば

四日市市文化協会様御用達　パネル用“紙看板”
フルカラーインクジェット大判プリント
900x1800mm 6,000円～
耐久クロス地、ターポリン地　取扱い
☎ (059)353-3885
株式会社 紺文（コンブン）旗店
http://www.konbun.com
E-Mail info@konbun.com
〒510-0075 四日市市安島2-4-14　TEL 059-353-3885　FAX059-353-2417

四日市地域　まちかど博物館めぐり

大入道さん mini ミュージアム＋Y

四日市のシンボル「大入道」に囲まれて

四日市市本町商店街の宝石店「有限会社みずたに」を営む、館長の水谷宣夫さんの自宅兼店舗の中に「大入道さん ｍｉｎｉミュージアム＋Ｙ」はあります。

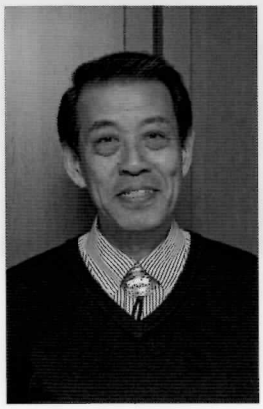
水谷さんは現在67歳で、その収集歴は実に27年間にも及びます。

四日市に関する古い品物が好きで、市内を歩き回ったり、インターネットで探して収集した資料は１５００点以上に上ります。そのうちの置物、絵画、ポスター、陶器、版画、写真、絵はがき、こけし、掛け軸、画帖など約３００点が大入道関係で占められています。

元々四日市と「四日市祭り」が好きな水谷さんは、１９４５年の空襲で消失してしまった「岩戸山」を１９８８年に本町通り商店街の人たちと復元しました。その際、資料探しを担当していると、「岩戸山」の資料よりも「大入道」の資料の方が圧倒的に沢山集まり、これがきっかけとなって大入道を集めるのが楽しくなり、結果たくさんの大入道が集まったそうです。

しかし、これだけの数を収集するのは、かなり大変な道のりだったそうです。それは大入道関連の物は子どもが使う目的で作られており、汚れたり、壊れて捨てられる事が多いことによります。でも、どんなに汚れていても、壊れていても水谷さんの手にかかると、見事に息を吹き返し宝物に生まれ変わります。

このコレクションの中には、ご自身が蒲鉾の板を彫刻刀で彫って制作した、諏訪神輿、西町神輿、比丘尼町大名行列、富士の巻狩り、岩戸山、鯨船明神丸、菅公文字書人形など精密な手作りのミニチュア作品もあります。からくりの部分も精巧に作られており、実際に動かすことも可能です。それでも、水谷さんは自分が制作した物より苦労して収集した物に愛着が湧くと言われます。



コレクションは店舗に入りきらず、廊下や3階の洋間と和室にも、ずらりと、きれいにディスプレイされています。そして、将来的には1階の店舗部分にすべてを移動するという構想も視野に含めておられます。

そのためにも「まだまだ四日市の古い品物と大入道に関する物を収集していきたいです。」と目を輝かせて話されました。

（レポート　森　次男）

四日市市本町８番８号
電話 059-352-4241
10:00 ～ 17:00
入館無料
休館：毎週水曜・第３木曜
※休館日のみ要予約

〝手描きに心をよせて25年、花に魅せられ、草木染めによって自然界から春夏秋冬を学びます。〟

彩の会代表の伊藤佳子さんは四日市文化会館で今年3月27日から始まる展示会のパンフレットの中でこう記している。

会員たちは月に一回の教室を楽しみに伊藤さんの工房にやってくる。朝10時から午後3時までみっちりと制作にいそしむ。「月に一回、その日だけはすべてのことから解放されて、自分だけのために有意義な時間を持ってもらいたい。家庭を持つ女性にとってはとても贅沢なことですが、それが明日への活力を生み出してくれると思うのです。」と伊藤さんは語る。

伊藤さん自身、一昨年ご主人のご両親を送り、今はご自身のご両親に寄り添う日々を送っている。「生きていれば日々いろんなことがあります。でも忙しい合間を縫って制作に没頭することで気分をリフレッシュさせることができます。皆さんの心の拠り所になればこんな嬉しいことはありません。」

人生に彩りを添えようと会の名前を「彩の会」とした。

染料は紅花、矢車（やしゃ）の実、蘇芳（すおう）の根などすべて自然界で採れたものを使う。教室で制作される作品は額絵やのれんに始まり、普段気軽に使えるブラウスやセーター、日傘や帽子などにも折々の花や草木が踊る。「家の中に自分の作品を飾って楽しんでいます。訪ねてきたお客様に素敵ねと言って頂くこともあります。もちろん先生の魔法の一筆のおかげなんですが。」と会員の一人が笑う。

30年ほど前、伊藤さんは名古屋にある草木染の工房に通っていた。その間に手描き技法の手ほどきも受け、ますますその魅力に引き込まれていった。デッサンやデザイン力を磨こうと絵画教室にも通った。ある時同窓会のバザーに出品した作品が好評で、ぜひ教えてほしいとの声が寄せられ、これがきっかけとなって教室を開くことになった。

着物や帯といった大作に加え、昨年から伊藤さんは新しい試みとして、これまでの色彩豊かな作品とは一味違う墨絵にも取り組んでいる。「私も皆さんに負けないよう日々研鑽を積んでいかなければいけませんもの。」

工房の玄関には伊藤さん手描きの桃の花が春を知らせていた。

（レポート　石塚眞木）

彩の会連絡先　代表 伊藤佳子
〇八〇・三〇六五・二八二八
制作教室 毎週火曜日、水曜日
午前10時から午後3時まで
定員各5名まで

人生に彩りを添えて

手描き染め「彩（あや）の会」

前列中央が伊藤さん

～第64回市民芸術文化祭～ 総合美術展を終えて

染色　廣山　三千代

昨年十一月二十二日から二十四日の日程で、四日市市文化会館第一から第四展示室までを使用し総合美術展が行われ、四日市市文化協会団体会員、個人会員、公募の部にて展示が行われ、私たち染色は第三展示室で、絵画、書道、写真、彫刻、能面、陶芸などで構成され展示いたしました。

会場で自分の染色以外の作者の方にいろいろ説明していただくと、テクニックは勿論ながら思いが詰まった作品ばかりでした。

そんな作家さんたちがもっと集まって作品の話が聞くことが出来ればと私は思います。

染色を本格的に始めて三十年、長年四日市市文化協会さんに、お世話になり三年前までは、美術部門と生活文化（いけばな）の一員として活動しておりましたが、現在は美術部門のみの参加となっております。

そんな私が言うのも、おかしいかとは思いますが、いつも美術部門でお見かけした方たちが出品されていないことがとても残念に思います。

文化愛好者の高齢化によるものなのか、一年に二回当番を楽しみながら時間を過ごし、皆で、また次回も「みなさんにみてもらって恥ずかしくない作品を」と話していたのですが、寂しく思います。

いま全国的に文化活動にとっては逆風の時代になってきたと言われている中、一会員として楽しく活動をしていければと思っています。

平成26年度賛助会員

法人会員

（株）シー・ティー・ワイ
（株）第一楽器
東海出版（有）
（学法）富田文化学園
日本トランスシティ（株）
水九印刷（株）
四日市都ホテル
（株）レイ・ステージ桑名

個人会員

一見　政幸　　豊田　政典
小川　徳浩　　中川　正春
田中　俊行　　永田　正巳
津田　健児　　若菜　淳二

ご支援ありがとうございました

「伝え続ける」大切さ

舞踊Ⅰ　西川　保歳

「第64回　日本舞踊まつり」は平成26年11月22日　四日市市文化会館　第2ホールに於いて賑々しく今年も催されました。

「今年も」と申しますのは、第1回目の市民文化祭より半世紀以上に渡り続けられてきたことに他なりません。参加者はもとより観客、市民の皆様のご支援、ご支持があってこそ続けられたと存じます。

さて、本舞踊まつりは全ての番組が古典日本舞踊によって構成されています。

「古典日本舞踊って何?」

その起源は太古に遡りますが現在の形になったのは元禄年間（約400年前）です。三味線・笛・小鼓・太鼓など邦楽器の伴奏で踊り、能や歌舞伎の所作や物語、音源をたくさん取入れ、時代に影響されつつも伝統（次の時代にも伝え続けなくてはならない）芸能として親しまれています。

今回も清元「名寄の寿」に始まり長唄「吾妻八景」まで全17番を8流派（㈳日本舞踊協会加盟団体）8社中25名の幼児・小中学生・娘さんや壮年の方、一般から名取・師範まで年齢も経験も幅広い出演者により華麗に格調高く舞い踊られました。

プログラムへの番組内容の記載や公募による入場チケットのプレゼントは観客の皆様によりお楽しみ頂ける材料になっています。

「第1回キッズ伝統文化体験教室」の体験者にも発表の場を提供することが出来ました。

観客の皆様からも〝若い方の出演が多く楽しい舞台でした〟〝毎年楽しみにしています〟などご支援を頂きました。これからも観客の皆様と共に大切に守り伝え続けたいと感じています。

四日市市文化協会後援イベント

手描き染め「彩の会」展
日時　3月27日（金）～29日（日）10時～17時
会場　四日市市文化会館第3展示室
主催　彩の会
入場料　無料
☎〇五九・三三一・四五〇三　伊藤佳子

第51回三省会書作展
日時　3月27日（金）～29日（日）初日12時～17時　28日（金）、29日（土）9時30分～17時最終日は16時まで
会場　四日市市文化会館展示室
入場料　無料
☎〇九〇・一八二五・一五九五　花井玉峰

未知への招待　マジックお楽しみ会
日時　5月6日（水・振）13時30分～
会場　津リージョンプラザお城ホール
主催　三重奇術愛好会
入場料　無料
☎〇五九・三二六・三五八七　川田　勝

第64回合唱祭

合唱　福田　真美

去る11月23日、文化会館第二ホールにて合唱祭が開催されました。

毎年秋に行われる合唱祭も今年で第64回目を迎えます。毎回多くの方々にご協力、ご支援いただき、お蔭さまで今回も盛況のうちに終了することができました。

今回は市内で活動する合唱団16団体、人数にして約470名が参加し、日頃の練習の成果をみなさまに披露させていただきました。それぞれこの日のために曲を選び、本番に向け練習を重ねてきました。演奏する曲も童謡あり、外国語曲あり、2014年大ヒットの映画曲もあり、ア・カペラもあれば伴奏付きもありと多様ではありますが、各団の特徴がよく出ていたのではないかと思います。

演奏の終わりには全体合唱として「翼をください」と「ふるさと」の2曲を出演者と会場のみなさまで歌いました。今回は聴きに来ていただいた方にもハーモニーを作る楽しさを知っていただきたい、ということで、少しではありますが「翼をください」で指揮者の先生より指導を入れていただきました。もう一曲の「ふるさと」は、合唱祭の最後に客席のみなさまと一緒に歌おう！と全体合唱を始めてからずっと歌い続けている、いわば定番曲です。目を閉じれば故郷の優しい景色が眼裏に浮かんでくるような、心に響くあの美しい旋律は、お好きな方も多いのではないかと思います。

毎年試行錯誤しながら、少しでもみなさまに合唱の楽しさを知っていただきたい、このハーモニーを少しでも多くの方に聴いていただきたい！との想いで、今年も合唱祭に向けすでに動き出しています。

2015年、第65回目となる合唱祭は11月22日の予定です。今年も皆様とお会いできることを願っております。

四日市交響楽団第37回定期演奏会

日時　5月31日(日)　14時30分開演
会場　四日市市文化会館　第1ホール
主催　四日市交響楽団
入場料
一般1000円(当日1200円)
中・高校生500円(当日700円)
四日市市文化会館ほかで発売中
☎〇五九・三五一・〇〇六五　まえそわ

第12回女声合唱団「京」演奏会

日時　6月7日(日)　14時開演
会場　四日市市文化会館　第1ホール
主催　女声合唱団「京」
入場料　一般1000円
四日市市文化会館発売中
☎〇五九・三九四・四一一九　中西信子

表紙作品募集

3，7，11月の季節感のあるものを募集しています。写真に限らず、イラスト、絵画、彫刻、習字などジャンルは問いません。ご連絡をお待ちしています。編集方針に基づき採用させていただきます。

※162×105mm（縦×横）
画像データの場合は300dpiの解像度で上記サイズとして下さい。

連絡先は文化協会事務局まで。
〒510-0057 四日市市昌栄町21-10
TEL　059-351-3729

短信

伝説の学生俳人、杉野順二をご存知？

戦後の新制四日市高校に、父亡きあとの家族の生活支援にとアルバイトをしながらも名古屋大学に進学した、いわゆる学生俳人がいた。学業優秀な杉野順二がその人である。

東京空襲を避けて当地に疎開、四高に編入学した杉野は、先輩小川蕪雨の後継者として「あけび句会」の中心人物となり当時の俳誌「天狼」やその僚誌「冬木」などに会員ともども投句、入選を繰り返し、学生俳人群の登場を一躍広く知らしめたことで知られる。

名大入学後は作句活動を継続するか否か煩悶する最中、結核を患い、入退院を繰り返しながらも病床では片時も句帳を手放さず、昭和26年8月20歳で夭折する運命にあった。

僅か20年の生涯での杉野の句業は約6,000句に及び、学生俳人杉野の遺徳を追慕するかつての句友らによって現在まで、「あけび句会」が継続されていること自体が伝説的である。

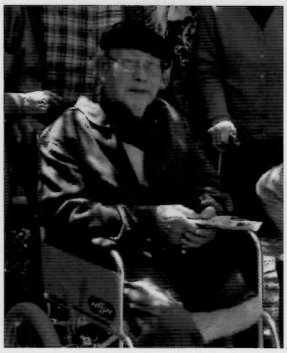
正月早々、杉野を偲ぶ学友らからも、「杉野評伝」執筆をとの声が多く寄せられている。

（志水雅明）

リレーエッセイ

私の星空

松澤白楊子



市民大学「星空の探訪」と言う講座がありました。市文化会館創立間もないころのことです。平均月一回ぐらいの割で一年間という長丁場でしたが、講座で学んだ星座の運行を確かめたり、星の固有名を覚えたりするのにはちょうどよい復習と予習の間合いでした。

以来三十年余り、一俳人としても星空に親しむことができたのはなによりも幸でありました。

先年亡くなった妻も私につられてよく星空を見ましたが、なぜか彼女は「南の魚座」の主星「フォーマルハウト」が好きでした。秋から冬、南の空あまり高くは昇ってこず、あたりに光を競う星もないちょっと淋しげな星です。ただ冬木立の中に一点の光をともすようなこの星の情趣を妻は感じていたのかもしれません。

十年余り病んで妻は亡くなりましたが、その二年半ほど前の私の日記に、（「死んだらおまえの好きだったフォーマルハウトで待ち合わせしようか?」と、冗談とも本気ともとれるようなことを言ったら妻はにっこり笑って二度三度と大きく頷いた）と記してありました。

葬儀のとき私の書いた「般若心経」と「フォーマルハウト」と書いた半紙をそっと棺の妻に抱かせて送りました。

理事長つぶやき

水谷　達

「忘己利他（もうこりた）」は「もう懲りた」ではなく、「己を忘れて他を利するは、慈悲の極みなり」という天台宗：最澄の言葉です。自分のことは後にして、先ず人々に喜んでいただくことをするという意味で、私たちの社会に言い替えれば、苦労のいらない楽な仕事は他人に任せて、人の嫌がる仕事や手間がかかる仕事を率先して自分で引き受けるということでしょうか。

さて、昨年7月に創立20周年を迎えた四日市市文化協会を法人化し、一般社団法人四日市市文化協会として新たにスタートすることになります。21年前に四日市文化連盟を発展解消して新たな組織を創ろうと、有志数人で毎日のように深夜まで議論していた頃を想い出します。今後とも引き続き、当協会の活動に皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

編集後記

●障害をもつ人たちの支援に取り組む毎日、地味でひたむきに働いている人たち、また幼児教育、子どもたちの育成など、「あきらめない」この言葉は全てに大切なことだと実感いたしました。一歩一歩でも前進することは、振り返った時その感動は素晴らしく輝いていることだと思います。身近な人たちを笑顔に変えて行く、働くことの楽しさは生きがいになっていくことでしょう。（石谷）

●大学生の頃、ある晴れた日の午後、穏やかな波の音を聴きながら堤防に寝そべり、目を瞑ると瞼が赤く染まった。何をどんな風に考えたのかわからないが、突然閃いた。〝そうか！人は死ぬ。もし死ななければ学習し知恵を身につける。しかし死ぬ。だから文化は引き継がれ、文化には意義がある。〟今でも変わらずそんな意識で編集委員として関わっている。（久安）

パッション　56号

●発　行　平成27年3月15日

●発行人　水谷　達

●編　集　パッション編集部

石井　亨（編集長）
石谷　英子・石塚　眞木・加藤　恵子・
白井　良昭・中西　まさ子・西村　邦彦・
久安　典之・福田　真美・森　次男

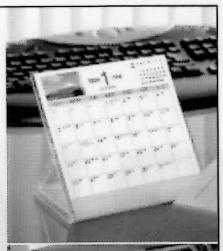
●発行所　四日市市文化協会
〒五一〇-〇〇五七　四日市市昌栄町二―一〇
TEL・FAX：〇五九―三五―三七二九

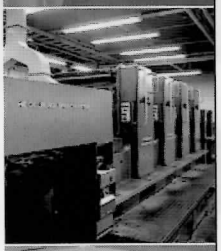
●デザイン・レイアウト　髙田　敦

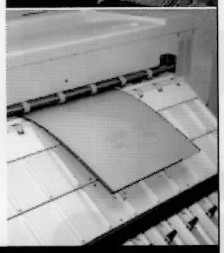
●印刷所　水九印刷株式会社

水 九印刷は印刷事業を軸にデザイン企画、
WEB制作、デジタルサイネージ（電子看板）、AR（拡張現実）、
物流までお客様のあらゆるニーズにお応えしております。

あなたの想いを
カタチに実現する







MIZUKU

地域と共に138年。

創業1875年（明治8年）を経て私達は常に革新し続けます。

ISO 14001:2004 認証取得企業

水九印刷株式会社

〒510-0013 三重県四日市市富士町1-147
TEL.059-332-6600 FAX.059-332-6688
E-mail admin@mizuku.co.jp www.mizuku.co.jp

落ち着いた雰囲気の個室から
宴会にぴったりなお座敷も
ございます。

竹姫弁当：1,620円（本体価格1,500円）

みやびの
お楽しみ膳

しゃぶしゃぶと日本料理

四日市みやび

四日市シティホテル 2階
〒510-0086 四日市市諏訪栄町 7-28

ご予約承ります
Tel.059-351-3600
ランチ／11:00～15:00（オーダーストップ14:00）
ディナー／平日：17:00～22:00（オーダーストップ21:00）
日曜：17:00～21:00（オーダーストップ20:00）
※写真はイメージです。※料理内容は季節により異なる場合がございます。
※価格はすべて消費税込みです。
近鉄四日市駅北口より徒歩2分

パッション 56号
発 行 平成27年3月15日
発行人 水谷 達
編 集 パッション編集部
発行所 四日市市文化協会
〒510-0057 四日市市昌栄町21-10
TEL・FAX：059-351-3729

BIG SPRING SALE!! in HAKUYO

ALL30%OFF~ 3/20→22

シェトワ白揚 文具館

四日市市安島2丁目4-9 TEL 059-355-8577
http://cheztoi-bungukan.com/